

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

栃 木 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	足利市立毛野中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	0	13	26
生徒数	140	133	161	0	434	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
～学ぶ意欲を引き出す「わかる授業」を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科(9教科)で実施
・全教科で実践研究に取り組む理由
新学習指導要領の趣旨や確かな学力の捉え方を生かすためには、全校をあげて全教科で同じ研究テーマの基に実践研究に取り組むことが生徒にとって望ましいと考えたため

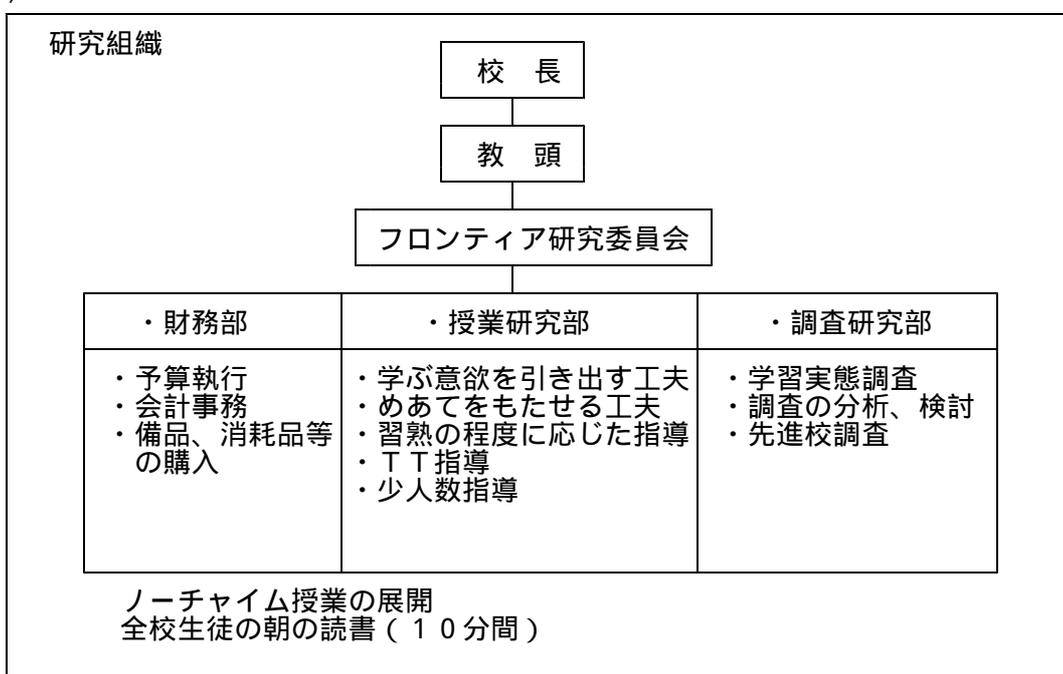
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	平成15年度からの指定のため、未記入
--------	--------------------

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善 学ぶ意欲を引き出すわかる授業の実践を中心として 研究の見通し(仮説) 学習のめあてをもたせ、学ぶ意欲を喚起することが学力向上の大切なステップと捉えている。</p> <p>研究内容・方法 ・9教科の研究とし、生徒の習熟の程度に応じた指導を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・個に着眼するための「学習カード」等の活用により学ぶ意欲を引き出す工夫やめあてをもたせる指導の一助としている。 ・TT指導、少人数指導、習熟の程度に応じた指導方法の工夫をする。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善 学ぶ意欲をもった生徒の育成（仮） 研究の見通し 基本的には、15年度の実践研究をさらに深めるようにする。 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9教科による研究をさらに進め、習熟の程度に応じた指導の充実を図る。（15年度の研究内容は継続する） ・個に応じた指導のための教材開発を行う。 ・生徒の学習実態を適切に捉える方法をさらに研究する。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「学習カード」等の活用により、生徒の学習のつまづきや悩み等を把握し、個に応じたアドバイスを行うことが容易になってきた。 ・ノーチャイム授業実施の効果もあり、主体的に学習に取り組んだり、時計を見て行動できるようになってきた。

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度取り組んだ「学ぶ意欲を引き出す工夫」や「めあてをもたせる工夫」をさらに継続し、個に応じた指導のための教材開発にも力を入れたい。 ・個に応じた指導の充実のため、補充的な学習、発展的な学習の展開の工夫も考慮する。

学力把握のための学校としての取組

- ・研究初年度の15年度は、生徒の学習に関する実態を把握し、研究に生かすため、「学習習慣」「学習興味」「学習意欲」等の内容の調査を6月に実施した。来年度も、同時期に生徒の実態を調査し、変容や課題等を把握して研究に生かしていきたい。
- ・学習内容の定着の状況については、標準学力検査等としてテストバッテリー（1年・・・知能テスト、AAIテスト、国語、数学、2年生・・・国語、数学）を1月下旬に実施し、全体と個の実態把握に努め、個に応じた指導の充実に図りたい。なお、テストバッテリーは、継続実施しデータの累積により学校としての課題解決の資料とする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・今年度は、公開研究会を平成16年1月26日（月）に実施。
公開授業は、習熟度別少人数指導の学習形態による2年生の数学
- ・来年度の公開研究会等の期日は未定だが、9教科による授業公開を予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 3学級以下 □ 4～6学級
 □ 7～9学級 □ 10～12学級
 ■ 13～15学級 □ 16学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 □ その他
- 【研究教科】 ■ 国語 ■ 社会 ■ 数学 ■ 理科
 ■ 外国語 ■ 音楽 ■ 美術 ■ 技術・家庭
 ■ 保健体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 □ 有 無